

# 経験を積んでも得られない教師の知識・技能とは？

『学習者を支援する日本語指導法』

広島大学人間社会科学研究科 畑佐由紀子



# 私の教育歴

年	役職	備考
1982~1988	ティーチングアシスタント (TA) (イリノイ大学)	初級～中級
1986~1989	講師 (ミドルベリー大学)	上級, 初中級
1988~1989	講師・コーディネーター (イリノイ大学)	初級, 上級 教材開発 カリキュラム開発, 教員養成
1990~2007	講師/ 准教授・コーディネーター (パデュー大学, アイオワ大学・シンシナティ大学)	初級～上級, 日本語教育, SLA カリキュラム開発, テスト開発, 教材開発, 教員養成, 研究指導
1998~1999	シニア・レクチャラー (モナシュ大学)	初級, 日本語教育, SLA, 研究指導
2007-2022	教授 (広島大学)	日本語教育, 教員養成, SLA, 研究指導

# 教師としての私の悩み

---

- 学生に何ができて何ができないか、それはなぜなのか、本人は気が付いているのかいないのか。教師としてどう支援できるのか。
- 学生は全差万別。一人に対してうまくいったからといって、別の学生にうまくいくとは限らない。学習者に共通することしないことをどう区別するのか。
- どうやったら学生のモチベーションを維持し、自律学習につなげられるのか。
- 教員志望者に何を教えればいいのか。どのようなスキルを身につけさせればいいのか、そしてそれはなぜなのか。
- 他の外国語と日本語を教えるのに、何が共通していて、何が日本語特有なのか。そしてそれはなぜなのか。
- 仕事に追われ学ぶ機会がない。分野の発展についていけない。
- 経験が教えてくれることはたくさんある、どこまで経験を信じていいのか。経験は自分の遅れをカバーできるのか。

# 経験では得られない，教師が知っておかなければならないこと

## 客観的証拠に基づく知識や技能

- 日本語に関する知識や運用に関する新たな知見
- 言語知識や技能の運用に関わる知見
- 学習者の言語知識や技能の習得過程
- 学習困難を起こす要因
- 学習を促す要因
- 効果検証がなされた指導のアプローチや教え方

学習者を支援する  
日本語指導法

I 音声 語彙 読解 聴解

畑佐由紀子



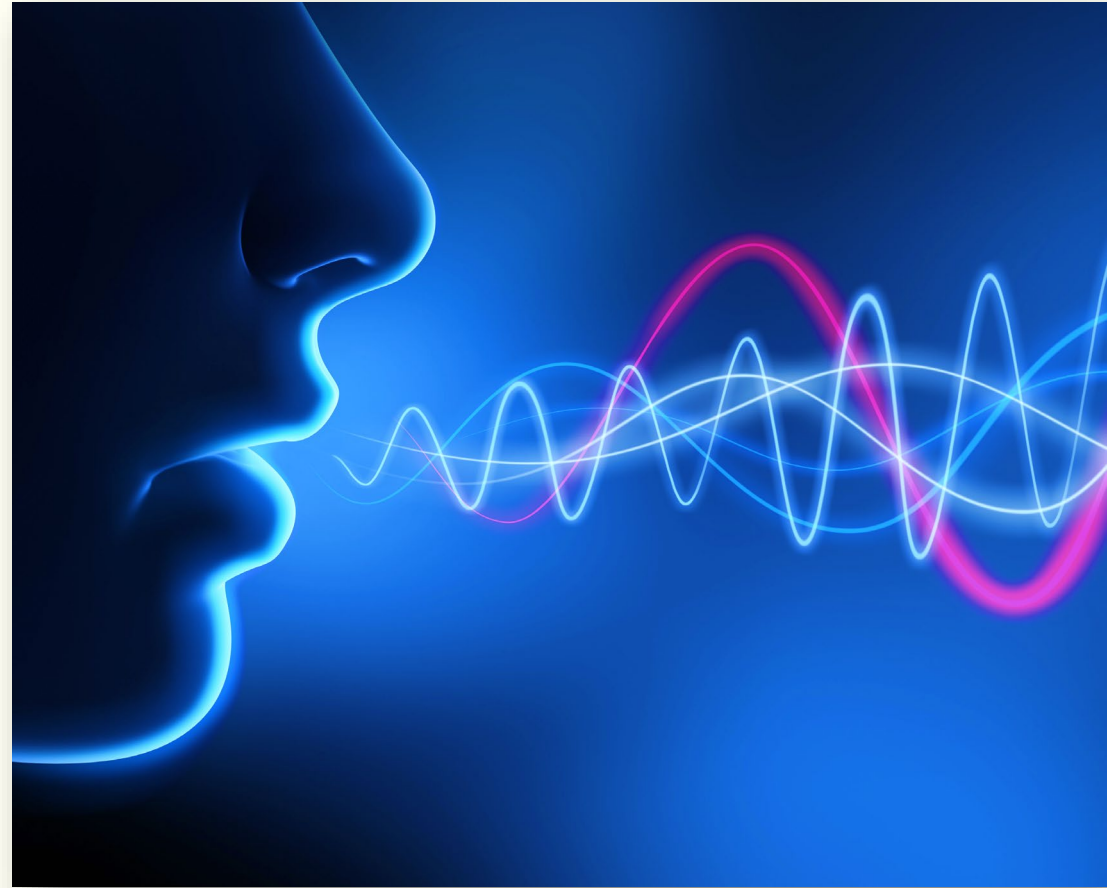
## 第1章 音声指導

## 第2章 語彙指導

## 第3章 聴解指導

## 第4章 読解指導

# 音声指導



## 参加者の皆さんに対する質問

---

- 授業中、発音の間違いをどの程度チェックしますか。
- チェックする以外に発音指導を定期的に行いますか。
- 発音指導にどのぐらいの授業時間を使いますか。
- 発音指導はどの程度重要だと思いますか。

私は…

リピートの効果は高くないことはわかっていたが、やっていたのは、単語のリピートやダイアログの音読、スピーチ・コンテストやスキットの練習ぐらい

# 第1章の構成

---

1. はじめに
2. 分節音と超分節音
3. 分節音（子音，母音，音と音素，音の無性化）
4. 超分節音（モーラと音節，言語のリズム，日本語のリズムとフット，アクセント，イントネーション）
5. 発音習得の問題
6. 音声の指導（習熟度と音声指導，分節音の練習，リズムの練習，アクセントの練習，イントネーションの練習，シャドーイング）



# 音声指導はなぜ大事なのか

---

## 音声为正しく聞けることのメリット

- インプットの活用：音声インプット を介した語彙や文法の獲得を促す
- キーボードによるインプットの正確さが高まり，文字認知や視覚的インプットを介した語彙習得を促す
- 音，語彙，統語処理など下位レベルの処理が早くなり，聴解力，読解力がつく

## 発音が悪いことのデメリット

- 母語話者に理解されない
- 母語話者のコミュニケーションに対する意欲をそぐ
- 母語話者に言語能力だけではなく，性格，能力面で評価が下がる

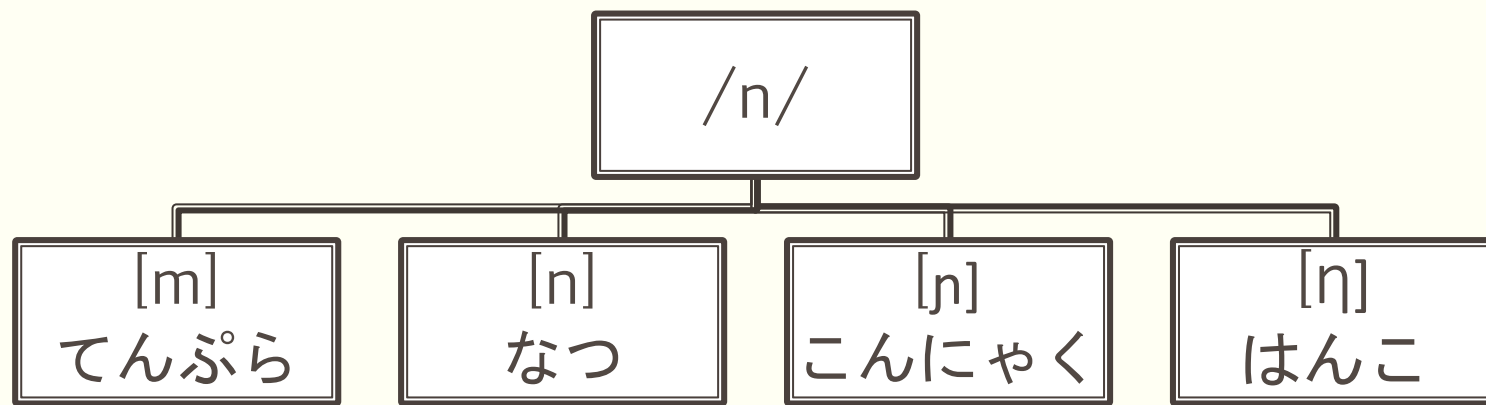
# 発音習得の問題点

---

- 発音は最も母語の影響を受けやすい（L1とL2で共有されない）
- 発音の問題は様々
  - 聞けるが、発音できない（英語母語話者： [ r ]）
  - 聞き分けられないため、発音できない（促音，アクセント）
  - 音だけではない
    - 日本語のリズム（モーラリズム・音節拍リズム・強勢拍リズム）
    - アクセント（ピッチアクセント・トーン・強制アクセント）
    - イントネーション（ダウンステップ，文末イントネーション）

# 単音の問題：分節音のカテゴリー

- 音（例：[n]） 音は違うが意味が変わらなく同じ音声として受け止められる
- 音素（例：/n/） 変わると意味も変わる音声の単位 /n/ /**n**an/, /**m**an/
- 異音（例：[n][m][ɲ][ŋ]） 違う音だが同じだと見做される，同じ音環境に現れない



# 単音の問題

---

1. L2の音がL1にない
2. L1にもL2にも音はあるが、L2では異なる音素なのにL1では異音になり、語の弁別の手掛かりにならない（例：日本語の有声・無声音）
3. 目標言語と母語の調音点や調音法が微妙に異なっている（例： **[r]**）
4. 母語にも存在する音ではあるが、母語では出現しない位置に出現する

分節音の問題	例	学習者の母語	原因
語頭有声音→ 無声音	ダイガク→タイガク デンキ→テンキ コウカイ→コウガイ	韓国語, 中国語, ベトナム語 ([k][g])	母語では, 有気音と無気音の区別があるが, 有声音と無声音が音素として存在しない。母語に[k]の有声音がない ([p][t]の有声音はある)
語中無声音→ 有声音	タカイ→タガイ アタマ→アダマ	韓国語	母語に無声音と有声音の対立が音素としてない
ツ→ チュ, ス	ツキ→チュキ, スキ	韓国語, ベトナム語, タイ語, スペイン語など	母語に[ts]がない 母語に[ts]はあるが, 語頭や語中の位置では[ts]を使わないなど
シー→チ チとジの混同	ワタシ→ワタチ チジ→チチ	タイ語	母語に[ɕi]と[dʒi]がないので[tɕi][ tɕʰi]で置き換える
ザズゼゾ→ジャ ジュジェジョ	ゴザイマス→ゴジャイマス ゼンゼン→ジェンジェン	韓国語	母語に[z][dz]がない
ナ, ダ, ラの混同	ハナ→ハラ ハナ→ハダ ハラ→ハナ コドモ→コロモ	中国語, 韓国語, ベトナム語, アラビア語, インドネシア語	母語で[n][l][d]のどれかが異音関係にある [n][l][d]のどれかが母語にない
ンの後のエ→ ネ	センエン→センネン	韓国語, インドネシア語, アラビア語	母語に撥音がないため, [N]が続いて[n]になる
連母音→ 2重母音	アイ→”i” [aɪ] カイシャー→[kaɪʃa]	英語	母語で母音が続いて別の音として発音されない

# リズムの問題（音節とモーラ）

## 日本語（1音節語）

胃 [i]	V	1モーラ
目 [me]	CV	1モーラ
王 [o:]	VV	2モーラ
本 [hoN]	CVC	2モーラ
塔 [to:]	CVV	2モーラ

同じ時間  
的長さ  
にあるのは、  
VかCV

同じ時間的長さに  
CVからCCCVCCCC  
までの組み合わせ  
があ

## 英語（1音節語）

pay	[peɪ]	CV
pray	[preɪ]	CCV
cat	[kæt]	CVC
socks	[saks]	CVCC
steak	[steɪk]	CCVC
stamp	[stæmp]	CCVCC
street	[stri:t]	CCCVC
strict	[strikt]	CCCVCC
strength	[strenkə]	CCCVCCC
strengths	[strenkəs]	CCCVCCCC

音の長さは意味理解に重要でない  
☞ 特殊拍の知覚・生成が困難

# リズムの問題（言語のリズム）

---

- どの言語にも一定のリズムがある。音楽や詩歌はリズムに従って作られる

## モーラ・リズム

あなたとコンビにファミリーマート



## 強勢拍リズム

It's **not** easy to **know** what is **true** for you or **me**. 

## 音節拍リズム

Je **viens** de **Japon** 

- リズムは特殊拍や日本語の高低アクセントの知覚や生成に影響を与える
- モーラリズムを持つ言語は少ない  母語に関わらず、間違いやすい

# 音の高低の問題（ピッチ・アクセント）



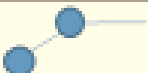

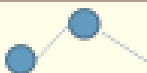


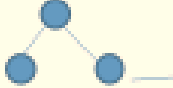


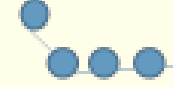
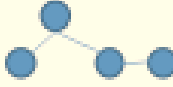


---

## 1. 語彙アクセント

- 単語や熟語の中で、一部の音の高さや強さを相対的に際立たせることによって、その単語や熟語のまとまりを示す
- アクセントがないと単語や句が聞きにくくなる（ロボットの声）
- アクセントが違ふと意味が異なることもある（橋、箸）
- アクセントはモーラごとに決まっているので、モーラが分からないとどこで音が上がったり下がったりするのかわからない
- 英語のようにL1で音の強さが音の固まりを示し、高低が理解に重要でな学習者は、高低の知覚や生成ができない



# アクセント型一覧

	平板型 (0型)	頭高型 (1型)			
1モーラ 気 vs 木	 き(が) (気)	 き(が) (木)	中高型		
2モーラ 柿 vs。牡蠣 vs垣	 かき(が) (柿)	 かき(が) (牡蠣)	 かき(が) (垣)	尾高型	
3モーラ	 りんご(が)	 トマト(が)	 おかし(が)	 おんな(が)	尾高型
4モーラ	 ともだち(が)	 ふじさん(が)	 せんせい(が)	 みずうみ(が)	 いもうと(が)

# 音の高低の問題（イントネーション）

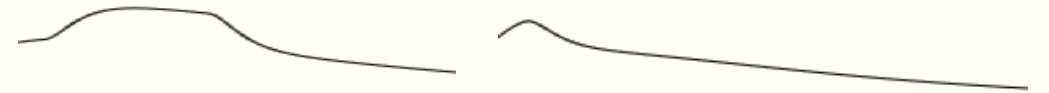
---

## 2. イントネーション

- イントネーションは文法の区切りを表す



[いもうとが きのう かいたえを] くれました



いもうとが きのう [かいたえを] くれました

- 文中のイントネーションが分かると構文解析が進みやすい
- 文中のイントネーションを間違えると、聞きにくくなる

# 音の高低の問題（文末イントネーション）

- 文末イントネーションはニュアンスを表す

下降調	上昇調
学生です。（事実の表明）	学生ですか。（疑問）
そうですか。（納得）	そうですか（疑問・確認要求）
おもしろいじゃない。（態度表明）	おもしろいじゃない。（意見要求）
よくない。（否定・態度）	いいですか。（確認要求）
締切は明日でしょう。（意見表明）	締め切りは明日でしょう。 （確認・同意要求）
そうですね。（同意・納得）	そろそろ行きましょうか。（誘い）
うそでしょう。（驚き）	ここはにしたらどうですか（提案）

# 音声の指導例：単音（生成）

---

## ダ, ラ, ナ （生成）

- [n] 鼻をつまむと、指先で空気の揺れを感じるか、鼻の穴が少し膨らむ。なければ、[d]か[r]
- 鼻をつまんで[na]を続けていって、振動や鼻腔のふくらみを感じたら指を話したまま「ナナナ」を繰り返す
- [d] [r] は、指を当てたとき振動や鼻腔のふくらみがないことを確認する
- [d]と[r]では、歯の後ろに当たる下の面積が違うことを確認する
- [r]は、舌尖のみを使って、速く「ララララララ」。
- [d]は、前舌をしっかりと歯の後ろに着けてゆっくり「ダ・ダ・ダ・ダ」、単語でも「こ・ん・ど」とはっきり言う
- ダはうになったり、ナになったりする人は、まずしっかり[d]が言えるように練習する
- ダとラの区別は、「ダラダラダラダラ」と交互にゆっくりいい、下の動かし方の違いを確認する

# 音声指導例：リズム

- 単語のリスト語の拍と拍の切れ目に「／」を入れ、横に拍数を書かせる  
特殊拍に注意「しょうがっこう」「こんにちは」「びょうき」
- 裏拍を取ってリズム感覚を付ける。単語ができるようになったら、句や文にして難易度を上げる。ゲームにして、ペアやグループで練習する


ワ タ シ



- 学生を教室や体育館の後ろに立たせる。絵や写真を見せ、単語を言わせる。正しければ拍数だけ前に進む。1 番初めに前についた人が勝ち
- 俳句や短歌を作る  
言ったけど だれに言ったか 分からない  
ウォーキング 秋に始めて 冬終わる  
マヨネーズ カロリーハーフ 倍使う

# 音声の指導例：高低感覚

---

- ドアチャイムの音（ピンポーン）、救急車のサイレン、象の鳴き声（パオーン）など、高低のある音を使って、どちらが高いか判断、毎日のクイズやゲームで楽しめるものをする
- 日本語の音とキーボードのキーの音が同じ高さかどうかの聞き分けクイズ。自分でも言わせてみる
- 日本語の音に言い換えて、同じようなクイズをする。自分でも言わせてみる。最初は2音ぐらい。徐々にモーラ数を増やす
- 単語にしてみる。初めは、「端」「箸」などの短い単語、その後、助詞を付けてみる「橋が」「橋が」「箸が」、徐々にモーラ数を増やす
- 単語を覚えるときに、音の下がり目に印をつけさせたり、 をつけさせたりする

# 語彙指導



# 参加者の皆さんに対する質問 どの語彙学習をさせていますか。 ○をつけてください。

---

- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 接辞（接頭辞，接尾辞）と語根を分析する    | 12. テキストの脈絡から意味を推測する    |
| 2. 動詞の活用（過去・過去分詞）も覚える     | 13. 前後の語を意識しながら書いて覚えさせる |
| 3. 文の理解のために，品詞を推量させる      | 14. 文の意                 |
| 4. 辞書は，解説も読み，関連語も調べさせる    | 15. 学                   |
| 5. 調べたり覚えたりするときに，友達と協力させる | 16. 新                   |
| 6. 新出語で文を作らせたり言わせたりする     | 17. 文                   |
| 7. 新出語を体験や以前習った語と関連づけさせる  | 18. 覚                   |
| 8. 同意語，反意語と一緒に覚えさせる       | 19. ャ                   |
| 9. 同意語，反意語も調べさせる          |                         |
| 10. キーワードを使う              | 21. 頻                   |
| 11. 覚えやすいようにグループ分けさせる     | 22. 前後                  |

私は.....

- 単語は教室外でも覚えられるが，文法はそうはいかない。
- 毎日のクイズを通して覚えさせる。
- 単語ごとに覚えさせる。
- 単語の意味が分かる場合，発音は注意しなかった。



## 第2章の構成

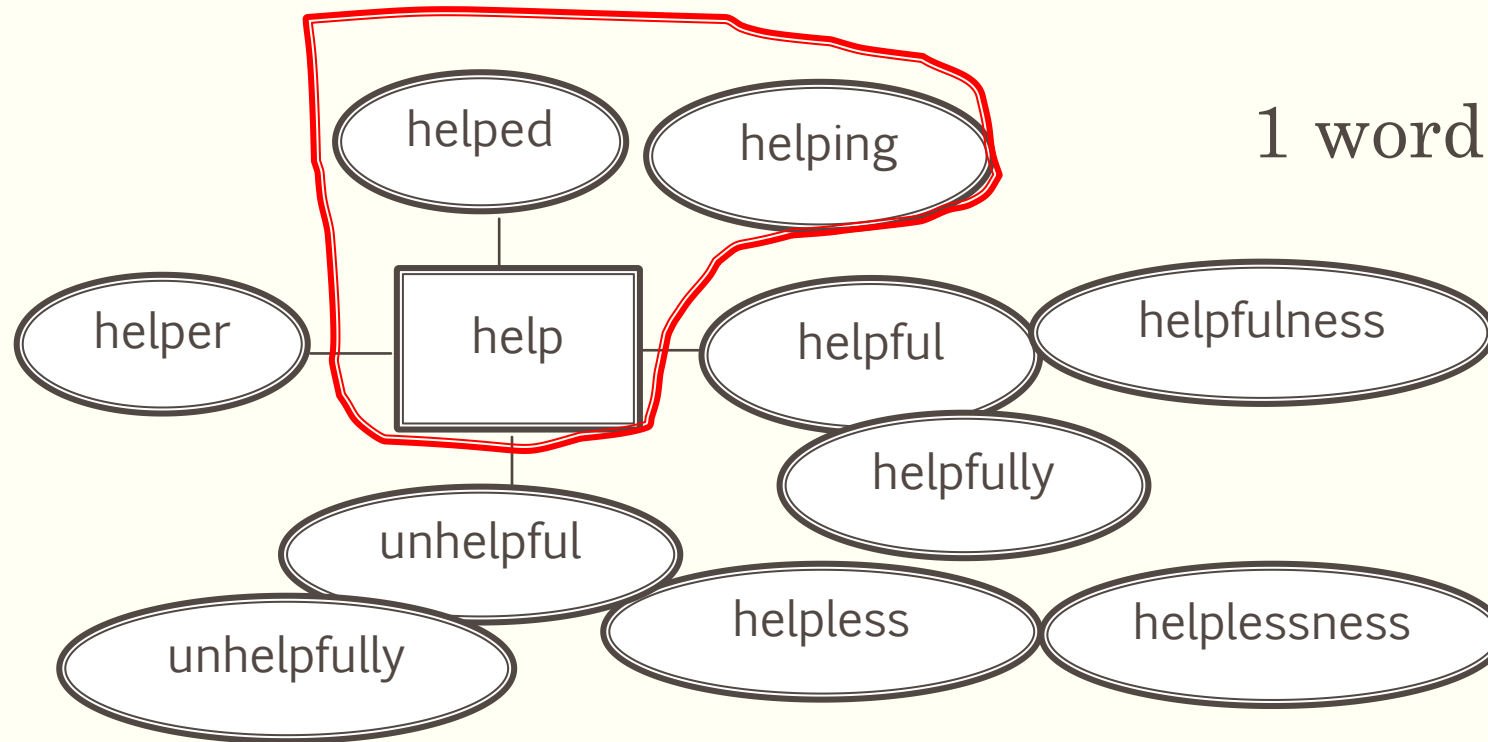
---

1. はじめに
2. 形態素，語と語彙
3. 語彙数と語彙頻度（ワードファミリーとレンマ，1年間に習得する平均語彙数，語彙頻度とカバー率）
4. 語彙知識
5. L2学習者の心内辞書
6. 定式表現
7. 日本語の語彙の特徴（和語，漢語，外来語，混種語，接辞と語構成）
8. L2 語彙習得に影響する要因
9. 語彙の指導（漢字の指導（予備段階，漢字指導の段階），指導項目，語彙学習のアプローチ（付随的語彙学習とストラテジー，意図的語彙学習））

# 語彙量の単位

**レマ**（語の基本形）日本語の語数を数える単位

**ワードファミリー**（語の基本形に接辞を足したもの）英語の語数を数える単位



1 word families, 9 lemmas

# 日本人の語彙量とJLPTの語彙量

## 1 ワードファミリー ≒ 3 レンマ

(成人英語母語話者 20,000 ~ 80,000 ワードファミリー  
≒ 60,000 ~ 240,000 レンマ)

### 日本語 (レンマ)

日本語母語話者 (藤田他, 2020)		旧日本語能力試験	
12歳	29,659	4級 (N5)	800
20代	60,961	3級 (N4)	1,500
30代	68,810	2級 (N2)	6,000
40代	71,045	1級 (N1)	10,000
50代~	83,001		

## 高頻度語と低頻度語

頻度順	英語に占める割合
初めの1000語	85.35%
+1000語	89.47% (4.12%)
+3000語	90.06% (0.59%)
+5000語	90.17% (0.11%)

頻度順	日本語に占める割合
初めの987語	75%
+749語	80%
+1370語	85%
+3059語	90%
+8695語	95%

## 低頻度語 （その分野の人にとっては重要な言葉）

---

- 使用場面が限られる言葉  
（会社、魚屋、肉屋、スーパー、製造業、公的機関、病院など）
- アカデミックな言葉  
（授業、教科書に出る言葉、研究論文など）
- テクニカルな言葉  
（マニュアル、説明書）
- 書き言葉  
（元気 vs. 息災）

# 語彙知識 (Nation, 2001)

語   形	音声	受容	その語がどのように聞こえるか
		産出	その語がどのように発音されるか
	表記	受容	その語はどのように見えるか
		産出	その語はどのように表記されるか
	語の構成素	受容	その語の構成要素 (接辞など) を見分けられるか
		産出	構成要素 (接辞など) を使って意味を表せるか
意   味	語形と意味	受容	その語がどのような意味を表すか
		産出	その意味を表すためにその語形が使用できるか
	概念と指示対象	受容	その概念に含まれる物は何か
		産出	その概念が指示する物は何か
	連想	受容	その語は他のどの語を連想させるか
		産出	その語の代わりに他のどの語を使用できるか
使   用	文法的機能	受容	その語はどのような文型で現れるか
		産出	その語をどのような文型で使わなければならないか
	コロケーション	受容	その語はどのような語と一緒に表れるか
		産出	その語をどのような語とともに使わなければならないか
	使用上の制約 (使用域, 頻度など)	受容	どのような場面で, いつ, どれぐらいの頻度でその語に遭遇するか
		産出	どのような場面で, いつ, どれぐらいの頻度で当該語を使用できるか

# 用法, ニュアンスの違い

- さむい、つめたい
- 発達、発展、進歩
- 言いにくい、言いづらい、言い難い

寒い：気温に対する体全体の感覚  
寒い朝、寒い冬（不快）  
冷たい：触れた感触「冷たい水」「冷たい雨」「空気が冷たい」「冷たい人」

発達：成長して大きくなる  
「心身の—」「—した低気圧」  
進歩：良い方、望ましい方向に向かう「科学の—」「技術が—する」  
発展：勢いなどが盛んになり、栄え、次の段階に進むこと「都市の—」「経済が—する」

～にくい：物理的・生理的に困難という意味、話しことば・書きことば両方、主語がモノ、無意志動詞はOK(消える、壊れる)

～づらい：心情的にそうするのがづらい、難しい、申し訳ないという意味、やや書きことば的、主語はモノ、無意志動詞はダメ

～がたい：実現することが難しくてめったにない。書きことば、使える動詞が限られている（認識・発言にかかわる動詞）理解しがたい、認めがたい、信じがたい、想像しがたい、賛成しがたい、許しがたい行為、耐え難い屈辱

# 共起関係

---

- お湯を沸かす vs. 水を沸かす
- シャワーを浴びる, 風呂に入る, 試験を受ける, 写真を撮る

**自由結合**：文法を使って語と語と自由に組み合わせる表現  
(例, 本を落とす, ペンを落とす)

**定式 (定型) 表現**：母語話者は共起関係が強いものを, 文法的に処理せず語として処理する。文法処理を介さないので速く処理できる。母語話者の語彙知識の50%以上は定式表現  
**L2学習者は定式表現の処理ができない**



# 定式表現（定型表現）

定式表現の種類	意味	例
ことわざ・格言	固まりで使用され，1つの意味単位を構築している句や文	雨降って地固まる 石の上にも三年
慣用句	2語以上の自立語を含み，構成語の総和が表す意味と句の意味が異なるもの（意味的透明性が低い）	間に合う 虫がいい
コロケーション	2語以上の自立語を含み，構成語から句の意味が類推しやすいもの	迷惑をかける 風呂に入る，シャワーを浴びる
語彙束	連続した自立語と付属語を含む2語以上の語から成るもの	なければならない のために
パターン	連続しない複数の語から成り，構成語の入れ替えはできないが，ほかの語句の組み合わせが可能なもの	～ば～ほど とても～ない

# 語彙習得とは，語彙習得過程

---

- ただ単語の意味と形を覚えることが語彙学習ではない。語彙を使って、相手の言っていることや、人の書いたものを理解したり，自分の言いたいことを意図通りに、正しいニュアンスで言えたり書けたりする
- 語彙にかかわる知識は複雑で，意味や用法が1対1対応のもの少ない
- 理解語彙は，使用上の制約や文法について正確に知らなくてもよいので，産出語彙より易しく，数も多い
- 語に関する知識は、一度に完全に習得されず，言語を習得していく過程で、徐々に深まり広がっていく。その語に関する全ての知識がなくとも，使ったり理解したりできる
- 語を使い分けるには、その語が使われる場面でたくさん聞いたり、見たりしなければならない。しかし，学習者が受けられるインプットは限られている

# 習得しやすい語としにくい語

---

## ■ 獲得しやすい語

- ① 具体的で意味が分かりやすい語
- ② 構成要素から全体の意味が分かりやすい語
- ③ 字形から発音がすぐわかる語彙（非漢字圏学習者）

## ■ L1がL2の習得を助ける条件

- ① 音韻体系が似ている（マレーシア語、インドネシア語、ハワイ語など）
- ② 表記システムが同じ（中国語）
- ③ 語彙のオーバーラップが大きい（中国語、ベトナム語）

- 高頻度語は獲得しやすい。高頻度ほど語彙知識は深い。語彙知識が深いほど、関連する語彙も獲得しやすい。結果的に語彙量が増える

# 非漢字圏学習者（文字認知力の獲得）

---

- 非漢字圏学習者は、文字の弁別、識別力が弱いので、読みから語彙を獲得することが困難
- 音と文字のマッピングのトレーニングが重要
- 画数が多く形態が複雑な文字は、運動感覚的な処理を伴って学習される。書くことは、文字の音韻処理と目で見た情報から空間を把握する（視空間処理）能力に関与する。
- 文字を認知するには、文字の構成要素を把握することも重要（母語話者は構成要素を使って字形を記憶している）

# 初級非漢字圏学習者（漢字学習）

---

- 漢字学習は長期間にわたって必要となる
- 画数が少ない基礎的な字形，意味が分かりやすい字形，構成要素になりやすい字形，学習者が知っている語から指導する
  1. 漢字の字形の筆画を分析し，字の構成を視覚的に把握する
  2. 空書は1度だけではなく，テンポよく早くできるまで行い，感覚をつかむ
  3. 漢字をなぞる，書く，習字をする
  4. 自分が書いた字と自分が書こうとしていた字のイメージと字形を比較する

# 初級日本語学習者（筆画の指導）

- カタカナを教える際にカタカナに含まれる筆画を導入し，漢字指導の際に使う。
- 漢字を構成する形を体系的に学習させる (ヴォロビヨワ, 2011; Taha, 2022)

コードの由来	基本線とコード	サイズ・オプション	ハネ・オプション	基本線の書き方
Horizontal（水平）	— H	— h	→ Hw	左から右に書いて止める
Vertical（垂直）	V	v	┘ Vw	上から下に書いて止める
Zの中央線の傾き	/ Z	/ z	┘ Zw	上から左下に書いてはらう
Nの中央線の傾き	\ N	\ n	\ Nw	上から右下に書いてはらう
Check（✓）	✓ C	/ c	-	下から右上にはらう
角のない「L」	└ L	└ l	└ Lw	上から右下に曲げて止める

- 筆画に含まれるカタカナを探す。筆画が同じものに○をつける。筆画のビンゴゲーム
- 市販の漢字ゲーム（頭がよくなる漢字ゲーム，同音異義語ゲーム，熟語トランプ） など

# 語彙指導・学習方法

---

## 意図的語彙学習

- 意図的に語彙を学ぼうとすること

例) 暗記や、リピート、目標語彙を使って文を作るなど

## 付随的語彙学習

- 読解や聴解など、内容理解など他の作業が目的の活動を通して語彙学習が目的ではなくを覚えること（語彙習得が主目的ではない）

例) 文脈からの類推や、気になった語を辞書で調べてみる  
など、意図的であることも偶発的であることもある

## 効果的に第 2 言語の語彙を学習するには

---

1. 意図的語彙学習と付随的語彙学習の両方が必要

2. 学習効果を上げる必要条件：

- 未知語に対する気づきを促す
- マルチ・モード学習

同じテーマの違う材料、聞きながら読む、聞いて書くなど、複数の観点から語彙に触れさせ、様々な文脈で繰り返し使わせる

- 語の応用をさせる



# 語彙指導（指導項目）

---

- 接辞，語構成→造語力を高める
- 共起関係（定式表現）
- 語彙学習ストラテジー
- 語彙指導の順番
  - 学習者にとって最も汎用性の高い語彙から指導（高頻度語，使用範囲が広い，産出語彙中心，話し言葉と書き言葉に使える，テキストカバー率が高い）教科書の語彙リストに依存しない
  - 理解語彙は中級以降，話し言葉と書き言葉の区別もしっかりする
- 効果的な語彙指導に必要な要素：動機づけ（学習者が覚えたい語），検索（自分で調べてみる），産出など

# 意図的語彙学習（導入）

---

## 導入の仕方に関する注意点

1. 絵カード, 漢字カード, レアリア, ジェスチャー, 言い換え, 文脈など, 多様な手段を用い, いろいろな観点で語彙を導入する
2. 意味カテゴリーで導入すると習得効果が下がる (例, 意味カテゴリー「果物」: 「リンゴ」「みかん」「バナナ」で導入)
3. テーマに沿って, 導入すると習得効果があがる (例, テーマ「学校」: 「先生」「学生」「教室」「教科書」「宿題」)
4. 初級では, 単語を母語の翻訳を使って学ぶ
5. 初級では, 派生義よりも, 基本義を教える, 一度に複数の意味を教えない  
基本義 ⇒ 派生義の類推効果, 付随的語彙学習効果
6. 共起表現, 特に定式表現, は文法として教えるのではなく, 固まりで教える

# 意図的語彙学習（練習）

---

## 練習の仕方に関する注意点

1. 理解させる活動よりも、比較や産出を伴う活動のほうが効果が高い
2. 語彙処理が深い活動は、記憶に残りやすい  
見るか聞く < 聞きながら見る  
    < 聞きながら書いたり、選んだりする
3. 意味カテゴリーは、導入ではなく、既習の語彙の練習で効果を発揮する
4. 接尾辞、接頭辞を指導し、語構成から意味を類推させる活動は、語彙力を増やす
5. 暗記は、暗記をする前に意味を考えさせたり、付随的語彙学習を組み合わせると効果が上がる

# 暗記の仕方

---

- 新出語彙と意味と一緒に反復する
- 新出語彙と関連語を暗唱する
- 意味を見て、新出語彙を繰り返し書く
- 母語訳を隠し、新出語彙の意味を言い換える
- 過去に学習した語彙にさかのぼり、まとめて反復する

# 意図的語彙学習の種類

---

- リピート
- フラッシュカード
- キーワード
- 連想法
- 語構成の分析
- 語呂合わせ
- 分類
- 転写
- 4 / 3 / 2 活動
- 借り物ゲーム
- クロスワードパズル
- 定義ゲーム・連想ゲーム
- ジェスチャーゲーム
- かるた
- 頭文字ゲーム
- 坊主めくり
- ばばぬき

# 付随的語彙学習

---

- 母語話者は付随的語彙学習を通して語彙を獲得する。  
母語話者の語彙力は長期間、大量のL1インプットを受け、使うことによって養われる
- L2学習者は、付随的学習の成功率が低く、類推に成功しても覚えていないことが多い  
長期間大量のインプットを受けられるL2学習者は限られている。L2学習者が受けるインプットは難易度が高く覚えにくいものが多い
- 付随的語彙学習は、聞いたり読んだりするのが簡単な場合に起こる。高頻度語が多い資料で付随的語彙学習が起こりやすい（例、一般向けのテレビ番組）
- 一度類推に成功しただけでは習得できない。何度も遭遇しなければならない

# 付随的語彙学習方法 1

---

- 初級では付随的語彙学習で語彙を獲得することを期待するのではなく、聞いたり読んだりすることに慣れ親しむことに焦点を当てる、完全な理解を求めるのではなく、何かが分かることに達成感を感じさせる

音楽やアニメ、漫画、 続きがある簡単なストーリー

- 材料の95%から98%の語彙は既知語でなければならない

未知語は20語から30語に 1 語ぐらい。学習者にとっては非常に簡単で、内容が容易に理解できる材料が必要

- 学習者が興味を持つ内容
- 市販の多読・多聴教材は学習者の知的興味に合うものにする。フリガナがついているので、非漢字圏学習者が漢字を学習することはあまり期待できない。漢字圏学習者は聞きながら読ませる

## 付随的語彙学習方法 2

---

- 付随的語彙学習でも，マルチモードが重要  
テーマが似ていて，関係がある物を読んだり聞いたりする。また，読むだけ，聞くだけではなく，様々な技能を使わせる
- 一度に集中的に未知語に触れさせるのではなく，間隔をあけて何度も遭遇させる
- 習熟度の低い学習者は付随的語彙学習と意図的語彙学習を組み合わせる
- 学習ストラテジーの指導が必要



# 語彙学習ストラテジー

---

## 1. 類推ストラテジー

- 接頭辞、接尾辞など語彙の構成要素から意味を推測する
- 文法や文脈から推測する（文脈使用の効果は習熟度に比例する）

## 2. ノート・テイキング・ストラテジー

## 3. 繰り返し書写、リスト作成

## 4. 検索ストラテジー

発見ストラテジー: 語の意味を発見するために辞書を使う場合

定着ストラテジー: 語の意味や用法などの確認、定着のために辞書を使う場合

- 辞書は 1 言語辞書の方が処理負荷が高く用法が習得しやすい
- 辞書は意味を調べるためだけではなく、用法、コロケーション、文法的機能、類義語間の意味の差などを調べるなど、深い処理をさせる使い方の方をする

# 読解指導



## 参加者の皆さんに対する質問

---

- 母語話者は1秒間にいくつぐらいの単語を文脈の中で処理すると思いますか。
- 自律的に読めるようになるためには何を指導すべきだと思いますか。

私は.....

- 読み速度を上げたり，自律学習に役立つような指導はあまりしていなかった
- 教科書や生教材に依存していた


## 第3章の構成

---

1. はじめに
2. 読むということ
3. 流暢な読みと流暢でない読み
4. 読みの過程
5. 読解ストラテジー
6. テキスト理解のモデル
7. 日本語学習者の読解の問題
8. 読解の指導（テキストの選び方，教室外活動（多読），習熟度別の指導）

# 読むということ（読みの目的）

---

- |                     |  |                |
|---------------------|--|----------------|
| 1. 学生の作文を読む         |  | a. 簡単な情報の検索をする |
| 2. 論文の要旨を読む         |  | b. 概要を掴む       |
| 3. 雑誌を読む            |  | c. テキストから学ぶ    |
| 4. インターネットで格安航空券を探す |  | d. 情報を統合する     |
| 5. 料理のレシピを読む        |  | e. 書くために読む     |
| 6. 書評を書く            |  | f. 批評する        |
| 7. レポート作成のための資料を読む  |  | g. 内容を理解する     |
- 

# 読むということ

---

1. 読む目的がある
2. 目的によって、何を読むか、何を無視するか、どの程度注意して読むかなど、読み方が変わる
3. 読む対象によっても読み方が変わる  
下手な文章、字が小さくて読みにくい、図表が付いているなど
4. 途中で目的が変わることもある  
面白いかと思って手に取ったが、面白くなさそう…  
ばらばら見ていたら、興味のある記事が載っていた

# 母語話者は1分間にいくつ単語が読めるか

## 英語母語話者の読み速度（黙読）（1分間）

[とても遅い]	170-199	五
[遅い]	200-229	五
[ふつう]	230-249	五
[ふつうよりは速い]	250-299	五
[やや速い]	300-349	五
[速い]	350-449	五
[とても速い]	450-549	五
[超速い]	550-650	五

日本人大学生 300字－1,200字（140～600語）（小林・川島，2018）  
（平均653字）（320語）

900字（400～450語）（森田・小澤，2015）

# 流暢な読みの特徴 (Grabe, 2009)

---

読むこと：読みの目的を達成するため理解，評価，学習を伴う言語処理活動

**1. 効率的で速い** 語彙処理（1秒間に3～4語）、統語処理、意味処理

**2. インタラクティブ** 様々な認知過程が同時進行で起こり、相互に影響しあう

**3. 柔軟で方略的なプロセス**

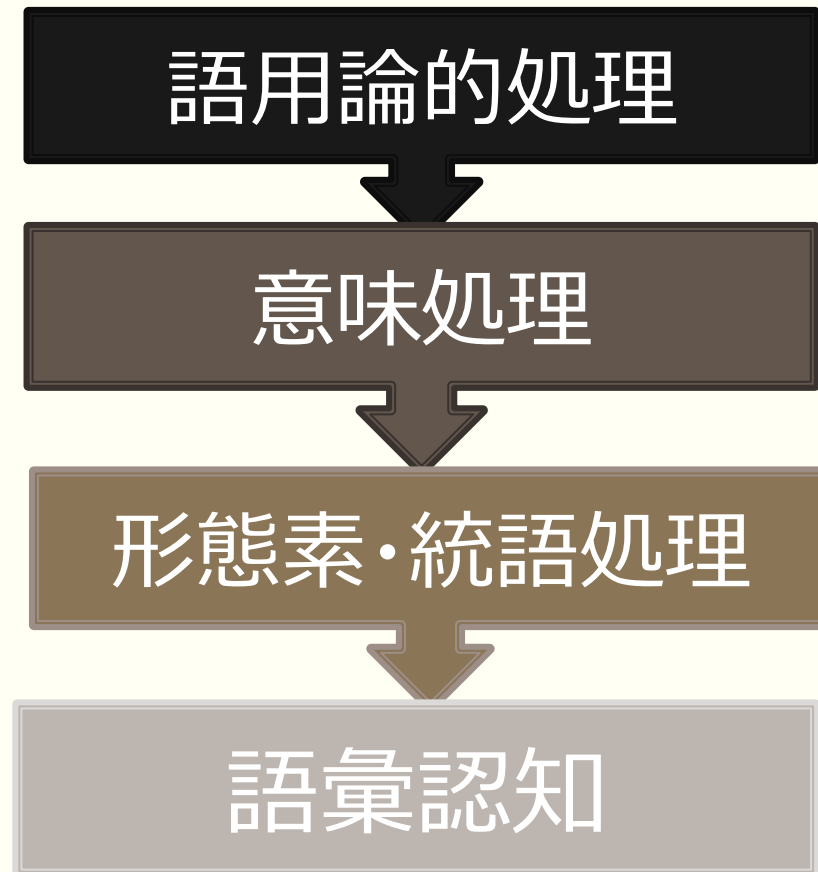
背景知識の想起，内容の予測，必要情報の抽出，情報の統合と要約，不要な情報の読み飛ばしなどが臨機応変になされ，読む過程で目的を変えたり，読み方を変えたり，読み直したりする

**4. 評価的** 自身の理解や解釈を評価する

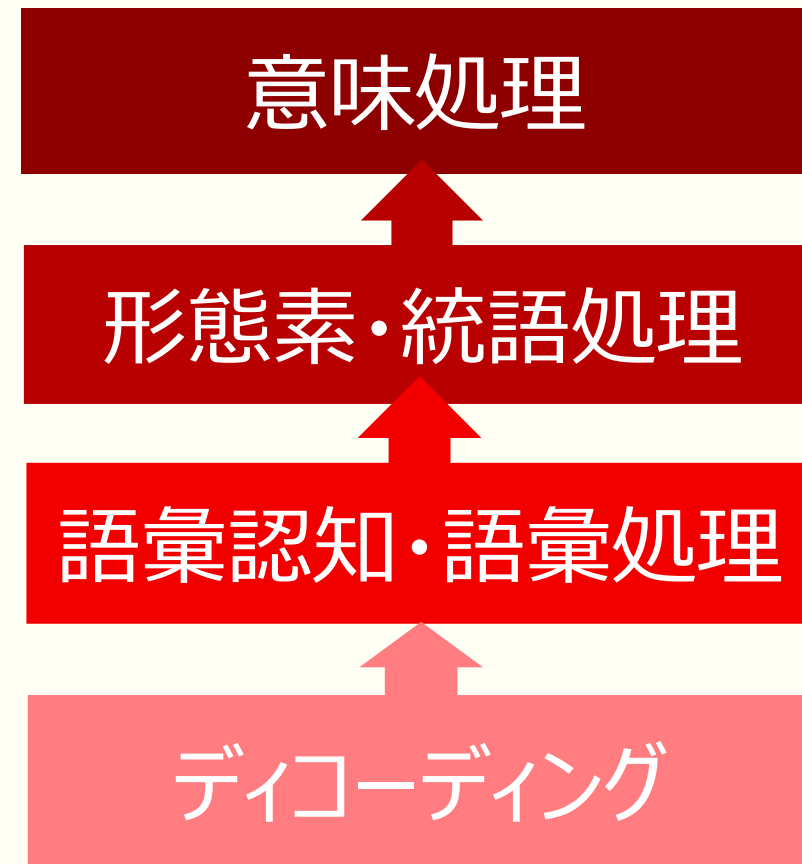


# 読みの戦略

## トップダウン・ストラテジー



## ボトムアップ・ストラテジー



# 読解をするために必要な情報処理

---

## 下位レベルの処理 (自動化処理)

- ディコーディング  
(文字や単語を音声化する)
- 語彙認知 (心内辞書にアクセス)
- 文法処理
- 文の命題の理解

## 上位レベルの処理 (コントロール処理)

- テキストベースの構築
- 状況モデルの構築
- 読解過程のモニタリング  
(読解ストラテジーの活用)

## テキストモデル・状況モデル

---

オシャレなショッピングモールで、棚の商品を見ながらうろついていると、どこか知っているようなオバサンが私の方に歩いてきました。

誰だったっけ、と思いつつそのまま歩き続け・・・  
「あ、自分だ！」と思った瞬間、ガラスにぶつかりました。  
店員さんがびっくりして飛んできました。

以来、そのモールには行っていません。

## テキストベースは

---

- おしゃれなショッピングモールだった
- 私はモールの中を歩いていた
- ガラスに私が映っている
- 私はガラスの中の自分に気が付かない
- 私はガラスにぶつかる
- 店員さんが来る
- 私はその後モールに行っていない

文や節の命題をつなげ、談話、段落、そしてテキスト全体の統語的・意味的結合を介して構築される表象

でも、この文章を読む人は、この事実が理解したくて読むわけではない

# 状況モデル

- 筆者は自分のことをどう思っているのか
- なぜこの人はモールに行かなくなったのか
- この文章を書いた筆者は何が言いたかったのか
- 私は筆者をどう思ったのか
- 私はこういう体験についてどう思うのか



読み物によってテキストベースが重要なもの、状況モデルが重要なもの、両方とも重要なものがあるので、読み物によって指導で重視すべきことも変わる

テキストベースを既有知識と統合して解釈、情報補充、精緻化等を行って構築される、自分なりの一貫した表象

# 読解習得の問題

---

## L1幼児

- 読み始める前に多くの語彙を知っている。6歳児の語彙量は5,000語～6,000語
- 2歳ごろから複文を使い始め、3歳では、接続詞を使って段落で話すことができる。小学校に上がるころには基礎的な文法の習得は完了し、統語処理も自動化されている
- メタ認知能力が限られている状態で言語を獲得しはじめる

## L2学習者

- 単語も単語の音韻表象も知らない段階で、文字、語彙、読解が始まる
- 文法処理の能力が低く、下位レベルの処理に負荷がかかる。上位レベルの処理に注意を向けられない
- 年齢が相対的に高く、認知能力が発達していることが多い
- 母語の影響を受ける

# L2学習者の問題

レベル	問題
初級	文字処理, 語彙処理, (非漢字圏学習者) 文法処理
中級	語彙知識, 語彙処理, 未知語が多い文章を読む機会が増える 未知語攻略 (例, 辞書使用の問題) 長文読解 (文法, 複文, 省略) かなに注意を払わないことによる読み間違い (漢字圏学習者)
上級	長文読解 (文法, 複文, 省略) 視点

## 流暢な読み手に育てるためには

---

1. 語彙知識をふやす
2. 下位レベルの自動化，流暢さが重要
3. 読解に特化した文法指導
4. 柔軟で多様な読解ストラテジー使用
5. 初級で背景知識に過度に依存しない  
背景知識は下位レベルの処理ができないと役に立たない



## 読解指導（テキストの選び方）

1. 学習者の習熟度とテキストの難易度が合致している
2. 学習者の興味や関心と内容が合致している
3. 学習者のニーズや読みの目的と内容が合致している
4. 学習者の年齢や認知的発達度と内容が合致している
5. 学習者の文化的背景を考慮した内容である

スキミング（既知語率95%+）  
速読や多読, シャドーイング（学習者のレベルより易しい物）  
学びのための文章（やや難しい物）

学習者の声を聴く,  
学習者に選ばせる

## 教室外活動（多読の指導）

---

- ①多読では、すべてを理解する必要はない。ストーリーがだいたい分かればいい
- ②辞書を使わず読む、分からない言葉は読み飛ばす
- ③毎日読む。初級であれば、1週間に20分ぐらいでも十分
- ④読んでいる本が楽しくない、面白くないと思ったら、途中でやめて、別の本を選んでいい。とにかく楽しく読めることが大事

# 多読の指導手順

---

1. クラスで一番読めない学生でもスラスラ読める物で、20分ぐらいで読みきれる物を用意する
2. 学生に多読用のノートを作らせる。このノートに、読み物のタイトル、読んだ日、読んだページ数、読んだ部分に関する要約や感想を書く欄を作らせる
3. 読み物のコピーを渡し、トピックやイラストからどんな読み物か考えさせる。初級の場合、「～の話」といった簡単なものでも構わない
4. 10分ぐらいの時間を与えて、黙読させるか、教師の音読か読み物の録音を聞きながら読ませる
5. 簡単な質問にペアで答えさせる。「この話はどこでありましたか」「いつありましたか。」「誰の話ですか」
6. まだ読んでいないところに何が書いてあるか、ペアで学生に考えさせる
7. また10分ぐらい読んで、同じように簡単な質問をする
8. 「やさしい」、「たのしい」、「おもしろい」、「つまらない」など、本を読んで感じた形容詞をかせたり、感想を言わせたりする
9. ライブラリー情報を配布し、学習者に読みたい本を選ばせる
10. この本を毎日自宅で読みたいページ数だけ読んで、記録を付けるように指示する

# 初級の指導

---

## 非漢字圏学習者

- 文字認知を高める指導 （スキミング, ネットサーフィン, キーワードサーチ）
- 速読のやり方

すでに文字と音声の連結が図られている表現をごく短い時間だけ見せ, それが何であったか言わせる。あいさつことばや決まり文句といった

簡単なフレーズ ⇒ 単文 ⇒ 3～4文 ⇒ 段落

- チャンク読み

音読音声を聞きながら, 語の区切りに／を付ける

内容を気にせず, 文章をざっと見ながら, 語の区切りに／を付けさせ, ペアで音読させる

## 漢字圏学習者

- シャドーイング

## 中級以上の指導

---

- 非漢字圏学習者は、中級、上級になっても、漢字語彙の獲得は読みの課題となるため、多読や教室での語彙指導は引き続き必要
- 読みの目的別の読み方指導
  - スキミング：アパート探しをするために、値段、場所、間取り、築年数、設備など条件をあらかじめ考えておき、それに最も合う賃貸物件を探させる
  - スキミング：雑誌の記事の初めだけ読んで、先を読むかどうか判断させる。日本文化に関するプロジェクトのため、本の紹介文や論文要旨のスキミングし、選択した資料について、概要をメモする。
- まとまった文章の指導

## 中級以上の読解指導（基本的な手順）

---

- **読解前の活動**：背景知識の活性化, 語彙, 表現, 文法の確認
  1. タイトルを読んで, このテーマに対する自分の考えやアイデアをペアやグループで共有する
  2. タイトルを読んで, 読みの目的についてグループで考え共有する
  3. 筆者に対する質問を考える
  4. 読み物の構成に関する知識について指導する
  5. 知っている情報を書き出す
  6. テーマでよく使われる言葉（キーワード）を書き出してみる
  7. 文章中で, 理解に必要な重要語彙と文法項目について復習する

# 中級以上の読解指導（基本的な手順）

---

## 読解中活動

### 1. 内容の理解の確認をしながら、ストラテジー指導をする

- 学習者に、主体的にスキミングやスキミングをして、前作業で作った質問のいくつかに答えさせる
- 読解中に質問づくりをさせ、これをもとに分からないところをもう一度読むなどのメタ認知ストラテジーや、推測のストラテジーなどを使わせる

1. ここまで読んで分かったことは何か

2. ここまで、読んで筆者が言いたいことが何か分かったか

3. 筆者は私にどのようなイメージを与えているか

### 2. 精読をしてまとめたり、情報を統合して、テキストベースの構築をする

## 中級以上の読解指導（基本的な手順）

---

### 読解後の活動（状況モデルの構築）

1. 自分の予測のどれが正しかったか，文章のどの部分が予測に合っていたか
2. 筆者が言いたいことは何だったか
3. この文章を読んで自分は何を感じたか，筆者が言いたいことについて自分はどう思ったか



# 読解ストラテジーの指導（補助資料参照）

ストラテジー	説明
グローバル・ストラテジー	読みの目的，読みながら全体の内容やこれから読むところについての仮説を立て，それを検証するストラテジー
類推ストラテジー	背景情報を使って推論をするストラテジー
文章構造を利用したストラテジー	文章構造を使って読みの展開を予測したり，情報を統合するストラテジー
メタ認知ストラテジー	読みながら，自分の理解度を確認し，必要に応じて問題解決をし，理解を深める
その他	セマンティック・オーガナイザーを活用する 辞書を引く メモを取りながら読む

# 読解ストラテジー指導の方法

---

## 1. 3ステップ指導：読解活動を3段階に分けてストラテジーを指導する方法

例) 既知情報→未知情報→学び

- ① 読み物のテーマについて既に知っていることを想起する（背景情報の活性化）
- ② 学習者がそのテーマについて知りたいと思うことを考える（読みの目的の設定, 読みの計画, 読み方を考える）
- ③ テキストを読んで何を学んだかを振り返る（重要情報を意識しながら読む, 文章の中の情報を評価しながら読む, 文章の中の情報と目的を照合する）

## 2. 相互教授学習：学習者が教師や学生の役を演じ、お互いから学ぶ方法。一人が先生になり、ほかの人が学生になる。全員で、読みながらお互いに、

- ① 文章に関する自分の質問を作る
- ② どのような情報が文章に含まれているか推測する
- ③ 分からないところをチェックする
- ④ 要約する

# 読解ストラテジー指導の方法

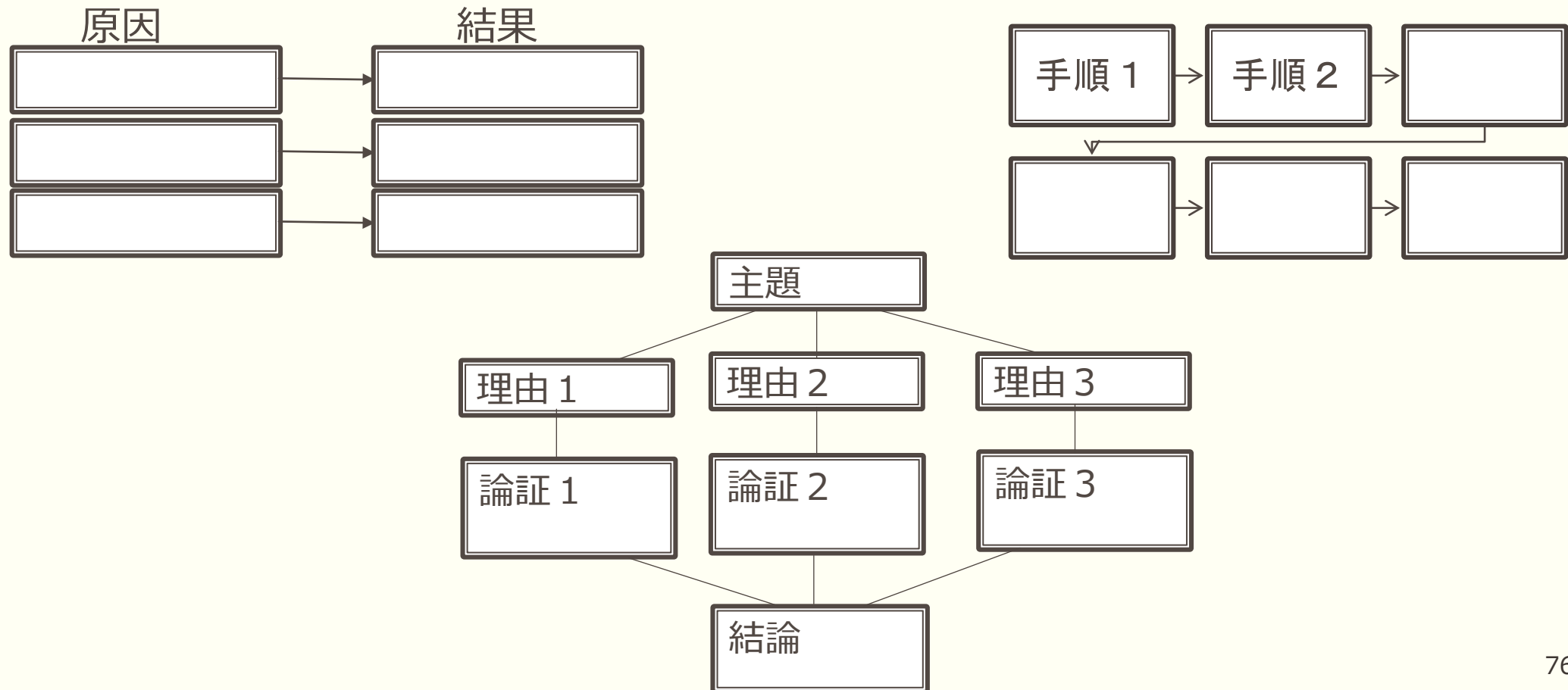
---

**3. 方略的共同読解：**メタ認知ストラテジーに着目した活動。ペアかグループになって以下のような活動をする。

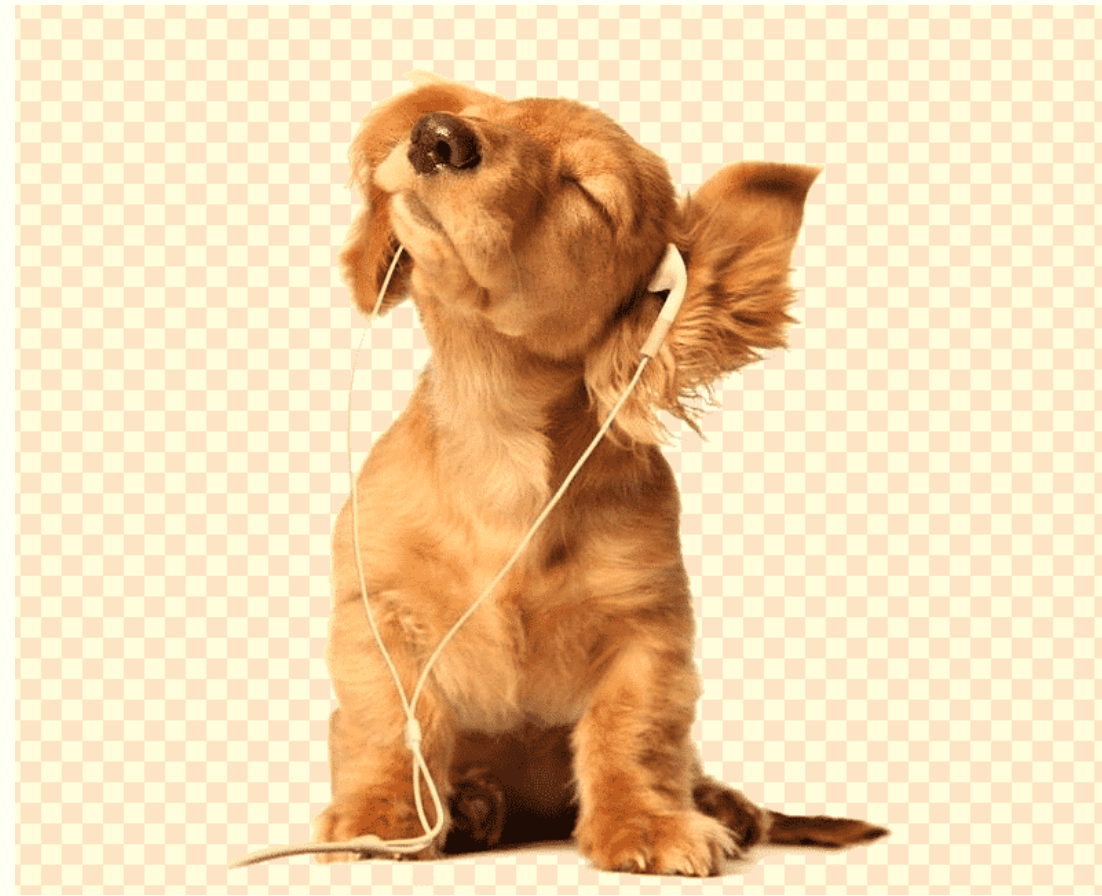
- ① トピックから背景情報を想起する
- ② 読みの目的を設定し、文章の内容に関する予測を立てる
- ③ 読んでいる間に、理解度をチェックし、分からないところを協働的に解決する
- ④ 互いの理解をチェックし、明確化する
- ⑤ 重要なアイデアを自分たちの言葉で言いかえる
- ⑥ 要約をする

## 中上級学習者の読解指導

### セマンティック・オーガナイザーの活用 (テキストベースの構築を助ける)



# 聽解指導



## 参加者の皆さんに対する質問

---

- リスニングの授業でどんなものを聞かせていますか。
- リスニングで学生がパニックになったことはありますか。その際、どうしましたか。
- リスニング能力を伸ばすには、どのようなトレーニングが必要だと思いますか。

私は...

前作業で背景知識や語彙の指導，本聴解，後作業で教材に関することを教えるぐらい。

聴き取りに必要な能力に焦点を当てていなかった。

## 第4章の構成

---

1. はじめに
2. 聞くことと読むこと
3. リスニングの過程（ヒアリングとリスニングの違い，下位レベルの処理，上位レベルの処理）
4. 聴解能力の習得（L1習得，L2習得）
5. 聴解の指導  
聴解能力の習得に必要なスキル.聴解教材・発話資料の選び方，  
聴解指導における留意点，聴解指導の種類と指導法  
（集中的リスニング，選択的リスニング，対話的リスニング，多聴，  
リスニングストラテジー）

# 聞くことと読むこと

---

## 聞くこと

- 自分のペースはない
- スキミングはできない
- 会話以外では聴き直せない
- 構文的に簡単
- 効率の原理（最小限の努力で最大限の情報を伝達する）高頻度語，短いチャンクなど，省略，筋肉を使わない音変化（すいません，～てる）
- 不完全文，言い直し，繰り返し，言い換えが多い
- 同音語は区別されにくい

## 読むこと

- 自分のペースで読める
- 意図的にスキミングができる
- 読み直しができる
- 構文的に複雑
- 完全文，明確な談話構造
- 同音語は視覚的に区別される



# リスニング と ヒアリング

---

- **ヒアリング** 聞こえてくる状態：音声刺激を聴覚神経に送る物理的過程
- **リスニング** 目的をもって聞くこと。聴覚提示されたインプットに注意を向けて初めて起こる過程。

脳内に取り込まれた信号を，言語音として認知し，音韻処理，語の認知，構文解析を行う（下位レベルの処理） 談話分析などの上位レベルの処理をして理解する

## リスニングができないと：

- 目標言語のモデルがわからず、インプットを習得に利用できない
- 自分の発話を評価できない
- 相手に反応できない

# リスニング過程（下位レベルの処理）

---

## 1. 音声知覚と音韻処理

## 2. 語境界の切り出し

語境界の手がかり：ピッチアクセント，日本語に特有の音の配列  
（例，語頭に子音クラスターがない，語中に子音が重なる場合は2つで，調音点が同じ，促音は/p, t, k, s/と/h/で現れる）

## 3. 語彙認知

- 語の音韻表象が構築できれば，心内辞書にアクセスできる
- 母語話者は，語彙知識が豊富で，音韻表象と意味表象が強固に連結しているので，高速で次々に入ってくる音声から語彙を即時的に認知できる
- 初級のL2学習者は，語彙の音韻表象と意味表象の連結も弱く時間がかかる。単語を理解しようとする間に次の単語が入力されパンクする

# リスニング過程（下位レベルの処理）

---

## 4. 構文解析

- 単語や形態素がどのように構造的に関連付けられているか判断する  
手がかり（句アクセント，イントネーション，ポーズ）
- 作動記憶容量には制限があり，一度に処理できる単語は4～6語ぐらいで，その情報は10秒程度しか保持されない  
⇒高速で構文解析できなければリスニングについていけない
- 構文解析の手がかりは言語普遍的なものと，言語によって異なるものがある  
手がかり： 第1名詞の原理， 有生性の原理

## リスニング過程（上位レベルの処理）

---

- 流暢なリスニングでは、上位レベルの処理も通常は意識されていない
- これまでに理解した内容から、その先にどのようなインプットが来るか予測する
- これまでに理解した内容から、今処理している内容を推論しながら統合し、整合性のある解釈をする
- 母語話者でも、逐次的に消えていくインプットから、すべてを完全に理解するのではなく、概ね理解することの方が多い。スキーマや既有知識を活性化し、音声インプットに不足している情報を補い、推論や問題解決を通して情報を統合する。そして、相手の発話意図を理解して、まとまりのある「容認可能」な理解を達成する

## リスニング過程（上位レベルの処理）

---

- 発話意図の手がかり： アクセント, プロミネンス, イントネーション
  - 話し手の属性： イントネーション（お坊さん, 神父さん, アナウンサー）
  - 非言語情報： 文化によるずれがなければ, 理解を深める
- 
- 過去の経験や既有知識をもとに, 話し手の意図や話の内容について, 自分はどう感じたのか, この後どうするかといった反応の仕方などについて考える

# リスニング能力の習得

---

- 音声知覚と音韻処理が第一の障害となる。音声に関わる情報は、脳内でL1とL2で共有されていないので、L2の音韻知覚能力を獲得するのが困難  
⇒語の切り出し、語彙認知も難しくなる
- やさしいインプットでなければ、リスニングから語彙力を増やすことが難しい
- 構文解析に失敗すると、リカバーできない
- 注意力が続かないため、注意インプットからそれて、解析に失敗する
- 学習者はL2の理解に効果的でないL1の文法処理ストラテジーは、早い段階で使わなくなる
- 談話レベルでは、表現だけではなく、スキーマ、非言語行動なども母語の影響を受け、この段階での失敗は誤解を生む

# リスニングに必要なスキル

---

- L2の音韻知覚能力
- 語彙知識
- 文法能力： 話し言葉によくみられる句単位の表現，  
言いさし表現，倒置や，縮約形などに関する知識
- パニックにならないような方略的なリスニングの仕方や，  
聞き取れなかった時の対処法，効率的に聞くための学習ストラテジー

## リスニング教材の選び方と使い方

---

- 2/3教科書教材, +1/3生教材は, 聞き取り能力を上げる
- 作文や説明文は話し言葉ではないので, 聴解教材に使わない
- テキストの聞き取り問題は内容確認をすることが主目的なので, 聞き取りの質問に頼らない
- 材料は以下の条件を満たすものを選ぶ
  1. 学習者が関心をもつ内容
  2. 学習者の文化的背景を考慮した内容
  3. 学習者のスキーマが使いやすい内容
  4. 指導目的を達成するのに適切な材料
  5. 適度な難易度



## 難易度の調整

長さ	<ul style="list-style-type: none"><li>長い音声資料は難易度が上がるが、その影響は大きくない</li><li>新情報が多く含まれる資料は、難易度が高くなる</li><li>繰り返し、言い換え、追加情報などがあると難易度が下がる</li></ul>
複雑さ	<ul style="list-style-type: none"><li>易しい文法を使うと構文解析は速くなるが、必ずしも理解度は上がらない</li><li>低頻度語は難易度を大幅に上げ、聞いたものの再現率を下げる</li><li>抽象的な内容は難易度を上げ、具体的なものは下げる</li><li>慣用句やその言語文化特有の語彙を含む資料は難易度が高い</li></ul>
構成	<ul style="list-style-type: none"><li>自然な会話資料は、原稿を読み上げた資料よりも重複が多く、構文的にやさし、いいよごみがあるので理解しやすい</li><li>結束性が高ければ高いほど、理解しやすい</li><li>「でも」「だって」「(それ)で」などの談話標識は理解を促すが、その標識がメイン・アイディアや重要な内容に関わる物かどうかによって効果が異なる</li><li>非言語的ヒントがあると、理解度が上がる</li></ul>
話し方と音質	<ul style="list-style-type: none"><li>耳慣れした話し方はも理解しやすい</li><li>習熟度が高くなると、言いよどみ、言い直し、言い換え、繰り返し、ポーズを含む発話の方が理解しやすくなる</li><li>雑音は難易度を上げる</li><li>速度によって理解度は異なる。同じ資料でも聞けない学習者は速いと感じる。速いと難易度が高いと判断する</li></ul>

# 生教材の選び方と使い方

---

- 学習者のレベルを考えて、未知語や未習の文法や用法が少なく、内容的にわかりやすいものを使う
- 加工が可能な場合、語彙や文法を少し易しく修正して使う
- アプリなどで、話速を遅くすると聞きやすくなるものもある
- タスクの難易度とタスクの数を調整し、難しすぎない活動にする
- 難易度が高い場合、前作業に時間をかける
- 繰り返し聞く、学習者同士で聞かせる
- キーワードや文を提示する
- スクリプトを見せる
- イラストを活用する(使い方によってはイラストしか見ない学生がいるので、注意する)

# 字幕付きのビデオや映画の使い方

---

- 初級の学生には字幕と画像、音声を一度に処理するのは負荷が高い
- 中級以上は、字幕は効果がある（マルチ・モード学習：ただし、非漢字圏の学習者の場合、すらすら読める字幕でなければならない）
- 字幕を目標言語で見せるか母語で見せるかは学習者の習熟度と字幕を使う目的によって選ぶ

字幕は目標言語で見せた方が母語で見せるより良いという結果もあるが、変わらないという結果もある（使い方の問題）

## 聴解指導における留意点

---

- 学習不安やストレスをできるだけ低くする

多聴：字幕付きのアニメ，ゲーム，すべてを聞かなくても楽しめる  
聴き取り活動

- たくさんのインプットを様々な形で提供する
- 人と協力しながら聞く活動を取り入れる。学習の難易度が下がり，インターアクションが言語習得を促す
- ターゲットとする言語的特徴に注意させる

# 聴解指導の種類

集中的リスニング	音声インプットの全てもしくは一部を正確に聞き取る活動，韻知覚能力，語彙力，文法知識や，構文解析能力など，下位レベルの処理能力あげる
選択的リスニング	発話資料のすべてを理解させるのではなく，一部に焦点を当てて理解させようとするもの 例）数字，方向場所，時間，，談話標識，意見を表す文，手順，事物の特徴
インターアクティブ・リスニング	会話相手の発話意図を理解して反応するための聞き取り
多聴	楽しみながらたくさん聞く練習 目標言語の音声やスピードに慣れ，長時間疲れを感じずに音声を聞く集中力を養う 聞き取れないところがあっても，聞き流し全体像を把握させ，不安感や緊張度を下げ，理解力を上げる。語彙力を付け，自信・モチベーションをあげる
ストラテジー指導	自分の学習過程をモニターする，自分の感情を調整し，学習動機を持続させるあきらめない姿勢と計画的に学習する姿勢を養う

# 集中的リスニング

---

1. 文を聞いて単語の数を言う
2. 人工的にポーズを入れたり, スピードを遅らせて聞く
3. スクリプトを聞きながら、語の区切りをマークする
4. 間違い探しと復唱誘導
5. ディクテーション
  - 実際の会話場面を想定し, 絵や言葉で場面を示して行う短文レベルのディクテーション
  - 穴埋め式ディクテーション
  - ランニング・ディクテーション
  - ジグソー・ディクテーション
  - ディクトグロス
  - 高速ディクテーション
  - 言い換えディクテーション
8. 高変動音素訓練 (High-variability phonetic training, HVPT)

### 3. スクリプトを聞きながら、語の区切りをマークする

例) 聞きながら単語の区切りに/を付けてください

ここではきものをぬぎましょう

このすしはすこしすがききすぎた

このくぎはひきぬきにくいくぎだ

はははうらにわにはにわにわにはにわにわとりがいるという

ひらがながれんぞくするとよみにくいかもしれない

カタカナダラケノハウガヨミニクイトオモイマス

# ダイアログ型ディクテーション

---

AさんとBさんの会話です。あなたはBさんです。Aさんがなにかいいます。  
Bさんのこたえを選んでください。

A: \_\_\_\_\_



B :

- a. それはたいへん！はやくふちょうにあやまったほうがいいですよ。
- b. なんでぶちょうにおこられたんですか。
- c. そうなんですか。くちょうはどうしておこっていたのですか。



# ディクトグロス

---

## ディクトグロスのやりかた



- ① 2回聞く
- ② グループで聞いたものを再現して書きおこす
- ③ ほかのグループと答えを比較する
- ④ もう一度聞く
- ⑤ オリジナルのテキストと自分たちが書いたものを比較する。内容の一致，表現の一致など目的によって比較するものは異なる
- ⑥ 重要なことを間違えたのか，些細なことを間違えたのか評価する
- ⑦ もう一度聞く

## 8. 高変動音素訓練 (High-variability phonetic training, HVPT)

---

聞き分けが難しい音を聞けるようにするための訓練，効果が大きい。1 日5分程度でできる宿題にし，宿題をすれば満点がもらえる。達成感を与えられるよう成功率を示す

1. 対象とする音を含む単語とその音を含まない単語で区別が難しいミニマルペアのリストを作る。その際，ターゲット音が語頭，語中，語末にあるような様々な単語を用意する
  2. 例) よじ (4時) ようじ (幼児) , おと (音) おっと (夫)
3. ミニマルペアを5～6人の母語話者に発音してもらい，録音する
4. 学習者にランダム提示した単語を聞かせ，どの単語かを選ばせたり言わせたりする
5. 学習者の判断に対するフィードバックをする

# 選択的リスニング

---

**前作業**①場面ではなく内容に関する絵やレアリア，トピックに関する面白い質問をもとに，トピックに関する背景情報を活性化し，興味を喚起する。語彙や文法の想起

①先行オーガナイザー（初級者）を用いた既知情報の整理，関連語彙や文法の練習，リスニングの目的の明確化を図る

②目的から聞く内容を焦点化し，何に注意をするかを計画させる

**本聴解**①メモしながら聞く

②自身のリスニング過程を振り返り，リスニングの目標がどの程度達成できたか評価

③達成できなかった点と原因について検討し，次に何に着目して聞くべきか考えて，もう一度聞く

**後作業**①理解したことを要約する

②自分の反応を，クラスメートと共有したり，文章化する

③聞いている間によくできたこと，できなかったことを振り返り，次のリスニングのための方略を考える

# 前作業の例

---

- 絵を見て、トピックを書く
- トピックについて知っていることを5つ書く
- 絵を見て単語を書く、ストーリーを書く
- 質問にあらかじめ答えておく、自分で質問を作る
- 単語リストを見て既知語と未知語をチェックする
- 物語の初めに出てくる事柄など、トピックについてどのような内容がどのような順番で出てくるかを考える



# 本聴解（リスニングストラテジー）

---

## 1. メイン・アイディアの聞き方（概要聴解）

- ① トピックを聞き、複数のトピックを考える
- ② 聞き直して、トピックを絞り込む
- ③ 聞いたことを言い換える
- ④ 正しい要約をいくつか提示し、選ぶ
- ⑤ 会話の発話行為を聞き分ける
- ⑥ 次に何が起こるか推測する
- ⑦ 次にどのようなことが来るか絵に描いてみる
- ⑧ 絵を順番に並べる
- ⑨ 絵と聞いた話との違いを探す

# 本聴解（リスニングストラテジー）

---

## 2. 詳細の聞き方

- ① 聞き取り教材に含まれていたトピックをリストにする
- ② 教師が話し手や参加者が言う・言わないことのリストを作り、学生にリストを渡し、話し手や参加者が言っていることと合致するものをリストから選ばせる
- ③ トピックのリストになくて聞き取り教材にあったものを足す
- ④ 出来事や手順をすべて聞き取る
- ⑤ 教師が聞き取り教材を途中でストップしたら、次に何が来るかを書く
- ⑥ 表や地図などを完成させる

## 本聴解（メタ認知ストラテジー）

---

振り返りシートなどを使って、以下のことをする

- ① 聞いた後の理解度チェック
- ② 理解を妨げた問題を見つける
- ③ どうやって問題を克服するか、何を聞き取るべきか計画する
- ④ もう一度聞き取り直して、つじつまが合う内容を考える
- ⑤ 全体的に何がわかったか、内容を要約し、必要に応じて肉付けする

# 後作業

---

1. 言語構造に焦点を当てた練習
2. ディスカッション
3. プロトコール（再生）
4. ディクテーション
5. スクリプトの分析
6. ロールプレイ
7. 要約
8. アウトラインの作成
9. 返事や感想を書く
10. 聞き取れた単語を調べる。気になる単語を調べてメモする



## 多聴（初級後半～）

---

1. 聴く目的は、まず楽しむこと、その次に、情報を得ること、全体的に理解すること
2. 目標言語の音声やスピードに慣れ、長時間疲れを感じずに音声を聞く集中力を養う
3. できるだけたくさんの発話資料を聴く
4. 多様なテーマやジャンルのものを聴く
5. 1回聞いただけで内容がだいたいわかる易しいものを聴く
6. 学習者に何を聞くか自分で選ばせる
7. 多聴は一人でする
8. 教師は学習者の進捗度をモニターし、指導する

# 多聴のやり方

---

1. スクリプトは見ずに、最初から最後まで通して聴く。楽しみながら、内容が終わるまで音源は止めずに、聴き続ける
2. 細かい部分が聴き取れなくても気にしないで、全体の流れを把握することを意識して聞く。単語を気にするのではなく、話しているシーンをイメージする
3. 理解できないところは何回か聴いてみる、一通り聞いて80%理解できない場合は、レベルを下げて易しい資料を選ぶ
4. 繰り返し聞いてもこれ以上分からなくなったら、一通り聞き終わった後、スクリプトを読み、内容を確認する。その際、聞いただけでは分からなかった部分があるかどうかを確認する
5. また最初からオーディオを聞く
6. 日をあけて、聞いてみる。例えば、通学やジョギングの際に聞いてみる。できそうだったらシャドーイングをしてみる



## 文法

- ・ 文法項目の難易度
- ・ 文法習得研究
- ・ 文法指導研究
- ・ 文法指導（項目の配列／指導法・アプローチ）



## 会話

- ・ スピーキングとは
- ・ コミュニケーション能力
- ・ スピーキング能力の習得
- ・ スピーキングの指導（研究，指導のアプローチ）



## 作文

- ・ 書くということ
- ・ 作文産出過程とライティング能力
- ・ ライティング能力の習得
- ・ ライティングの指導



## マルチスキル

- マルチタスクの必要性
- マルチタスクのアプローチ（TBLT, CLIL, 反転授業, Blended Learning）
- マルチタスクシラバスの構築



ご清聴ありがとうございました。